

「らくらく収支会計」の仕訳

収支計算書と貸借対照表は本来連携しませんが、純資産の部に“基金”を設定するところにより、連携が可能になります。「らくらく収支会計」では、通常の複式簿記の仕訳を行うだけで、収支計算書と貸借対照表を連携させた決算書の作成を可能にしています。

1. 仕訳の方式について	2
「らくらく会計」の仕訳概要	2
「らくらく会計」の仕訳のルール	2
2. 具体的な仕訳例	3
日常の仕訳について	3
収入（収益）があった場合の仕訳	3
支出（経費）があった場合の仕訳	3
複合仕訳について	3
給与を支給したときの仕訳	4
未払金・未収入金・前払金・前受金等の仕訳	4
未払金に係わる仕訳	4
未収会費・未収入金に係わる仕訳	5
前受金に係わる仕訳	5
前払金に係わる仕訳	6
預り金に係わる仕訳	6
固定資産に係わる仕訳（見返り勘定を使う場合）	7
固定資産の取得	7
固定資産の売却及び除却仕訳	7
減価償却の仕訳	8
固定資産の修正仕訳	8
長期借入金に係わる仕訳（見返り勘定を使う場合）	9
長期借入金の発生	9
長期借入金の返済仕訳	9
修正仕訳	9
3. 見返り勘定を使わない場合	10
固定資産に係わる仕訳	11
長期借入金に係わる仕訳	11

1. 仕訳の方式について

「らくらく会計」の仕訳概要

- 普通の複式簿記会計と同様な仕訳を行います。
- 資金の動きのある取引は、自動的に収支計算書にも計上されます。
- 完全な「1取引1仕訳」を実現しています。
- 注意点として固定資産・固定負債の訂正仕訳はマイナス金額で行なってください。

「らくらく会計」の仕訳のルール

1. 固定資産を取得した場合、複式簿記と同様な次の仕訳を行っただけで

器具備品 / 現金預金

基金には自動計上されます。

収支計算書には器具備品取得支出が自動計上されます。

2. 固定資産や固定負債の修正伝票は、逆仕訳ではなく、マイナス金額で行ってください。

・例) 借入金 が 600,000 円多く計上されていたので、取り消す場合。

現金 -600,000 / 借入金 -600,000

・例) 購入した固定資産の入力ミスが見つかり、60,000 円減額したい。

固定資産科目 -60,000 / 現金 -60,000

マイナス金額で行う理由は、収支計算書では総額集計になるためです。

3. 複合仕訳は、総勘定元帳を出力した場合に相手科目がすべて“諸口”になりますので、相手科目を明示したい場合は、単一仕訳で仕訳をしてください。
4. 自動按分仕訳は、複合仕訳が出来ません。
(理由) 部門間の自動按分処理は、相手科目が特定されないと正常な按分できないために単一仕訳に直して仕訳をしてください。
5. 固定資産の売却に伴う売却損や売却益がある場合の仕訳は下記で詳細に説明します。

2. 具体的な仕訳例

下記の仕訳例で示す科目の名称は、会計の種類により異なることをご了承ください。

日常の仕訳について

収入（収益）があった場合の仕訳

- 収入（当期の益）があった場合の仕訳

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11030 預金1	20,000		51410 正会員受取会費	20,000
2	11030 預金1	300,000		51630 受取民間補助金	300,000
3	11030 預金1	6,000		51910 受取利息	6,000
4	11020 現金	5,000		51930 雑収益	5,000

支出（経費）があった場合の仕訳

- 支出（当期の損）があった場合の仕訳

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	55060 事／旅費交通費	6,000		11020 現金	6,000
2	55100 事／消耗品費	3,000		11020 現金	3,000
3	55140 事／光熱水料費	80,000		11030 預金1	80,000
4	56050 管／会議費	5,000		11020 現金	5,000

複合仕訳について

- 次のような複合仕訳を行っても構いませんが、相手勘定は“諸口”になりますので、出来るだけ単一仕訳で行ってください。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	55060 事／旅費交通費	5,000		11020 現金	10,000
2	55100 事／消耗品費	6,000		11030 預金1	20,000
3	55120 事／印刷製本費	19,000			

- 一枚の伝票に複合仕訳と単一仕訳を混在させることも出来ます。借方金額と貸方金額が一致している場合は単一仕訳となり、不一致の場合は複合仕訳であると判断します。

給与を支給したときの仕訳

- 次のような複合仕訳が出来ます。この場合の相手科目は”諸口”となります。
- 貸方科目を上方に詰めても構いませんが、摘要がそれぞれの仕訳で書けるように重複しないようにしています。
- この仕訳は通常、雛形登録をしておくとう便利です。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 55020 事/給料手当	3,800,000		
2 55050 事/福利厚生費	200,000		
3		11030 預金1	2,950,000
4		21050 預り金(所得税)	300,000
5		21060 預り金(住民税)	200,000
6		21070 預り金(社会保険)	400,000
7		21080 預り金(退職共済)	100,000
8		21090 預り金(雇用保険)	50,000

未払金・未収入金・前払金・前受金等の仕訳

未払金に係わる仕訳

- 未払金の発生

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 56100 管/消耗品費	5,000	21020 未払金	5,000

- 未払金の支払

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 21020 未払金	5,000	11020 現金	5,000

(補足)

収支会計の未払金は収支計算書において現金預金と同等に扱いますので、通常の商業簿記と同じ仕訳が出来ます。未払金の残高は次年度に繰り越されます。

以下に説明する未収入金、前受金、預り金、前受金も同様です。

未収会費・未収入金に係わる仕訳

- 未収会費・未収金の発生

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11550 未収会費	50,000		51410 正会員受取会費	50,000
2	11560 未収金	1,000,000		51620 受取地方公共団体補助金	1,000,000

- 未収会費・未収金の回収

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11030 預金1	50,000		11550 未収会費	50,000
2	11030 預金1	1,000,000		11560 未収金	1,000,000

前受金に係わる仕訳

- 前受金の発生

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	5,000		21030 前受金	5,000

- 前受金を収入科目に振り替える

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	21030 前受金	50,000		51310 受取入会金	50,000

前払金に係わる仕訳

- 前払金の発生

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	11570 前払金	60,000	11020	現金	60,000

- 前払金の解消

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	56160 管/保険料	60,000	11570	前払金	60,000

預り金に係わる仕訳

- 預り金の発生

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	30,000	21050	預り金(所得税)	30,000

- 預り金の支払

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	21050 預り金(所得税)	30,000	11020	現金	30,000

固定資産に係わる仕訳（見返り勘定を使う場合）

固定資産の取得

- 固定資産を取得する仕訳例

収支計算書には取得支出として計上されます。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 12340 什器備品	30,000	11020 現金	30,000

- 建設仮勘定を使う仕訳

支出時の仕訳

収支計算書に反映します。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 12360 建物仮勘定	5,000,000	11030 預金1	5,000,000

- 建物への振替仕訳

この場合、収支計算書は動きません。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 12310 建物	5,000,000	12360 建物仮勘定	5,000,000

固定資産の売却及び除却仕訳

- 固定資産を除却した場合（簿価 100,000 の器具備品を廃棄した場合の例）

収支計算書は変化しません。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 31020 運用財産	1,000,000	12550 器具及び備品	1,000,000

- 売却して損金が出た場合（簿価 500,000 の器具備品を 300,000 円で売却した場合の例）

収支計算書には固定資産売却収入 30 万円が計上されます。

借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1 11020 現金	300,000	12550 器具及び備品	300,000
2 31020 運用財産	200,000	12550 器具及び備品	200,000

- 益金が出た場合（簿価 500,000 の器具備品を 700,000 円で売却した場合の例）
収支計算書には固定資産売却収入 70 万円が計上されます。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	11020 現金	700,000		12550 器具及び備品	700,000
2	12550 器具及び備品	200,000		31020 運用財産	200,000

減価償却の仕訳

収支会計では、通常減価償却は行いません。（減価償却は非資金科目であるために収支計算書には科目が存在できないため）

しかし、固定資産と基金を次の仕訳で減額することにより、貸借対照表の中だけで、減価償却を行うことは可能です。

- 減価償却の仕訳

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分
1	31020 運用財産	15,000		12550 器具及び備品	15,000

注意)

非資金取引は必ず単一仕訳で行なってください。複合仕訳を行うと、相手勘定科目が資金諸口になり、収支計算書に仕訳が反映するようになります。

固定資産の修正仕訳

- 修正仕訳はマイナス金額で行なってください。
（理由）固定資産の増減は、収支計算書では総額集計になりますので、逆仕訳をすると売却収入に計上されます。

	借方科目コード 補助科目コード	借方金額 消費税区分		貸方科目コード 補助科目コード	貸方金額 消費税区分	摘要名1 摘要名2
1	12050 器具及び備品	-100,000		11020 現金	-100,000	修正仕訳

長期借入金に係わる仕訳（見返り勘定を使う場合）

長期借入金の発生

- 通常の複式簿記仕訳になります。

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	11030 預金1	3,000,000	22010	長期借入金	3,000,000

長期借入金の返済仕訳

- 通常の複式簿記仕訳になります。利息も忘れないように仕訳をしてください。

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	22010 長期借入金	500,000	11030	預金1	500,000
2	56210 管/支払利息	30,000	11030	預金1	30,000

修正仕訳

- マイナス金額仕訳をしてください。

逆仕訳を行うと、収支計算書では返済支出になりますので注意してください。

借方科目コード 補助科目コード		借方金額 消費税区分	貸方科目コード 補助科目コード		貸方金額 消費税区分
1	11030 預金1	-50,000	22010	長期借入金	-50,000

3. 見返り勘定を使わない場合

見返勘定を使わない以下の仕訳をする場合は科目設定を次のようにして下さい。

丸印の FigG 及び FigH の数字を削除してください。

勘定科目(B/S,P/L)									
科目コード	科目名	FigA	FigB	FigC	小科目	補助科目	FigG	FigH	消費税
12000	2. 固定資産	3	1	0					
12100	基本財産	2	1	0					
12110	土地	0	1	0			2	21	
12120	建物	0	1	0			2	21	
12130	その他の基本財産	0	1	0			2	21	
12500	運用財産	2	1	0					
12510	構築物	0	1	0			3	22	
12520	車両・運搬具	0	1	0			3	22	
12530	器具及び備品	0	1	0			3	22	
12540	建設仮勘定	0	1	0			3	22	
12550	無形固定資産	0	1	0			3	22	
12560	減価償却積立預金	0	1	0			3	29	
12570	積立預金	0	1	0			3	29	

勘定科目(B/S,P/L)									
科目コード	科目名	FigA	FigB	FigC	小科目	補助科目	FigG	FigH	消費税
22000	2. 固定負債	3	1	1					
22010	長期借入金	0	1	1			4	41	
22500	負債合計	4	1	1					

勘定科目(B/S,P/L)									
科目コード	科目名	FigA	FigB	FigC	小科目	補助科目	FigG	FigH	消費税
30000	Ⅲ. 純資産の部	9	1	1					
31000	基金	3	1	1					
31010	基本財産	0	1	1			12		
31020	運用財産	0	1	1			13		
31030	負債積立金	0	1	1			14		
35000	繰越金	3	1	1					
35100	次年度繰越金	0	1	1			110		
35800	純資産合計	4	1	1					

55000	固定資産取得支出	3	2	0					
55010	固定資産取得支出	0	2	0				21	
55020	積立金積立支出	0	2	0				29	

75000	固定資産収入	3	2	1					
75010	基本財産売却収入	0	2	1				21	
75020	積立金取崩収入	0	2	1				29	
75100	資産売却益	0	2	1					
76000	長期借入金収入	3	2	1					
76010	長期借入金収入	0	2	1				41	

固定資産に係わる仕訳

基本財産定期預金を積み立てた場合

借方	貸方
55xxx 基本財産定期預金支出	11xxx 預金
12xxx 基本財産定期預金	31xxx 基本財産

基本財産定期預金を取り崩した場合

借方	貸方
11xxx 預金	75xxx 基本財産定期預金収入
31xxx 基本財産	12xxx 基本財産定期預金

引当金を計上

借方	貸方
55xxx その他の固定資産支出	11xxx 預金
12xxx その他の固定資産	23xxx〇〇引当金

固定資産を購入して運用財産を増やす

借方	貸方
55xxx 固定資産物品支出	11xxx 預金
12xxx 固定資産物品	23xxx 運用財産

固定資産を廃棄

借方	貸方
23xxx 運用財産	12xxx 固定資産物品

長期借入金に係わる仕訳

長期借入金の発生

借方	貸方
12xxx 普通預金	76xxx 長期借入金収入
32xxx 負債積立金	22xxx 長期借入金

長期借入金の返済

借方	貸方
56xxx 長期借入金返済支出	12xxx 普通預金
22xxx 長期借入金	32xxx 負債積立金

勘定科目コード早見表

以下の二桁の数字を打ってエンターキーを押すとその科目の先頭に飛びます。間違えた場合は、その場でもう一度新しい数字を打ってエンターキーを押してください。

11:流動資産

12:固定資産

21:流動負債

22:固定負債

31:純資産

50～:支出科目

70～:収入科目